

編集後記

これを書いているのは2022年12月ですが、今年もCOVID-19感染症の蔓延は収束することなく終わろうとしています。今年の初め頃は、年末にはもう終わるのかという期待がありましたが（個人的に）、全くの甘い期待でした。それぞれの医療機関では、この1年もずっと大変な状況であったと推測いたします。そうはいても、少しずつウィズコロナに移行しつつあります。神経学会学術大会含め、今年の多くの国内学会はハイブリッドないし現地開催に移行していきました。まだ気軽に海外の学会に行ける、というレベルにはなっていないと思いますが、現地での国際学会に参加される先生も少しずついらっしゃるようです。

一方、コロナ禍になり、学会がオンラインのみとなった時期があり、それを経験することで、実地開催する意義や大切さを改めて感じることができました。同じように思われている先生も多いのではないのでしょうか？私は、対面でしか得られない情報、フロアで行われるディスカッションから得られる情報の大切さやありがたみを改めて実感しています。コロナ前は何気なく参加していた現地開催の学会ですが、COVID-19のパンデミックを経験して、改めて気

づかされたことも多くあります。

さて、本誌の読者の先生方は、コロナ禍であってもオンライン、ハイブリッド、現地含め、学会で多くの発表を経験されてきたと思います。それはそれで非常に大切な作業です。しかし、それらの記録は抄録として記録されることはあっても、学会の参加者以外に知られることはあまりありません。「これは！」と思って発表した内容は、後生の人たちのためにきちんとした形で残しておくべきだと思います。その形こそ、論文化です。日本語が母語の私たちにとって、日本語の雑誌は非常に大切です。そして、その重要な雑誌の一つが「臨床神経学」だと思います。本誌は、主に、若い先生方のはじめの頃を書く論文の投稿先として活用していただいていると思います。編集委員は、各分野の一線級の先生方で、その先生方から貴重なコメントを得られる大切な機会です。きっとその後の医療者としての活動の中で糧となるようなコメントをもらえるはずです。ぜひ「臨床神経学」への投稿をご検討ください。

（新野 正明）

〈編集委員〉

編集委員長	小野寺 理	編集副委員長	三澤 園子		
編集幹事	石浦 浩之	漆谷 真	杉江 和馬		
編集委員	今井 富裕	木下 真幸子	古賀 政利	櫻井 圭太	柴田 護
下畑 享良	鈴木 匡子	辻野 彰	坪井 義夫	中嶋 秀人	新野 正明

「臨床神経学」	第63巻 第2号	2023年2月1日発行	
編集者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル	一般社団法人日本神経学会	
発行者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル	西山 和利	
印刷所	〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入	中西印刷株式会社	

発行所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル
日本神経学会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>